

あいさつ 20

東浦町長
神谷明彦



新年明けまして

おめでとうございます。

昨年もうれしいことや期待の持てる出来事がありました。

例えば、藤江小学校が地元の方たちと一緒に竹炭焼きなど、長年にわたり学校林の整備をしてきたことが高く評価され、全日本学校関係緑化コンクールで最優秀賞を受賞し、天皇皇后両陛下がご臨席された第70回全国植樹祭にて表彰を受けました。また町出身のピアノスト務川慧悟さんが、伝統ある「ロン・ティボー・クレスパン国際コンクール」のピアノ部門で第2位に入賞しました。さらにかつては部員不足で活動の危ぶまれた県立東浦高校野球部が近年着実に実力をつけ、さらに地域と連携した駅の清掃や老人ホームでのボランティア活動が評価され、春の選抜高校野球の「21世紀枠」愛知県推薦校に選ばれました。いずれも長年の地道な努力が花開いたも

ので、各分野で頑張っている方々にとっても大変励みになります。さらなる活躍に期待をいたします。

さて、昨年4月から家庭系可燃ごみ処理の有料化がはじまり、町指定ごみ袋が半透明青色から半透明白色の新しいごみ袋に変わりました。ある日を境にごみ袋をきちんと切り替えることは簡単なことではありません。それでも、東浦の住民の皆さまはまちで決めたことだから、自分たちのごみのことだからと、みんなで一緒になって実行してくださいました。私たち行政の職員も、住民の皆さまとともにごみの減量化をさらに進めて参ります。

夏休み前には、小中学校の全普通教室にエアコンの設置を完了しました。子どもたちはもちろん、教職員からも学習する環境が整ったと喜びの声を聞いています。

10月からは、町運行バス「う・ら・ら」のダイヤと路線を大幅に改正しました。

環状線や小型車を導入し、ふじが丘、生路、石浜の郷中を通って緒川へとつながるコースを新設しました。これまでのバス4台から6台体制となり便数も増えましたが、使い勝手が大きく変わったためにご意見も多く承っています。これはとりもなおさず公共交通への関心の高まりと捉え、引き続き皆さまのご期待に応えて参ります。

11月末には、於大公園史上初の宿泊イベント「於大公園に泊まろう！」を開催し、170名以上のテント泊の申し込みがありました。同時に野外音楽フェス、水 Rocket 教室、星空観察会、キャンプファイヤーなどが開催されました。これは、「於大公園の使い方方を考えるワークショップ」で出たアイディアと「若者会議」で出たアイディアが融合して、それぞれのメンバーがコラボしてできた企画です。また芸術の秋にちなんで町の所蔵する絵画をうのはな館

に一堂に集めて企画展「いろ・ど・り絵画コレクション」を開催しました。これからも、住民の皆さまのご意見をいただきながらユニークな企画を開催していきます。

昨春にはイオンモール東浦がリニューアルグランドオープンし、^{かいわい}界隈のにぎわいが一気に増しました。今年度末には緒川駅のバリアフリー化工事が完了します。緒川駅周辺では地権者のご協力を得て都市計画道路緒川南北線の整備事業も進めているところです。バスも含めて東浦町の公共交通の結節点として、都市的整備が進むものと期待しています。

今年もみんなで支え合える、絆のある、自然が豊かで居心地の良い、便利で安心できるまち、そしてユニークな人材・クリエイティブな人材が共鳴し合う、そんな躍動するまち東浦を皆さんとともにつくって参ります。

新年のご 20



東浦町会議長
小松原英治

新年明けまして

おめでとございます。

皆さまにおかれましては、健やかに新春をお迎えのことと心からおよろこび申し上げます。

昨年4月に東浦町議会議員一般選挙が実施され、5月より新たな16人の議員で構成される東浦町議会がスタートしました。私自身、昨年は初めての議長職の重責を身に染みて感じつつも後顧の憂いなく数多くの公務に精励することができました。これも皆さまの議会に対するご支援の賜物^{たまもの}であり厚く御礼申し上げます。

昨年は、4月30日の天皇陛下譲位に伴い、翌日5月1日に皇太子殿下が即位され、新元号「令和」の時代が始まりました。令和元年6月2日には、天皇皇后両陛下の行幸啓を仰ぎ、愛知県森林公園において、第70回全国植樹祭が開催され、式典において藤江小学校が表

彰されました。藤江小学校は、学校林を活用し、竹炭をつくり、地域に配布したり、地域の河川浄化に用いたりする活動を学校と地域が一緒になって続けています。そのことが評価され、平成30年度全日本学校関係緑化コンクルの学校林等活動の部で、最優秀賞である特選（農林水産大臣賞・日本放送協会会長賞）を受賞し、両陛下の前で表彰されました。

さて、昨年日本で開催されたラグビーワールドカップでの日本代表の活躍は記憶に新しいですが、チームのスローガンである「ワンチーム」の言葉通り、強い結束により史上初の8強進出を果たしました。歴史の扉をこじ開けた日本代表の姿に多くの人が感動したと同時に、刺激を受けたものと思います。東浦町議会におきましても、各議員の能力・資質向上は必要なものと考えますが、議員同士で

熟議し、最終的には「チーム東浦町議会」として一つのチームとなり議会活動することがそれ以上に重要なことと考えます。

また、東浦町では、昨年策定しました第6次東浦町総合計画において、計画期間を令和元年度から令和20年度までの20年間とし、将来の町の目指す姿を「つくるつながるささえあう幸せと絆を実感できるまち東浦」としています。これは、少子高齢化や人口減少により大きく社会が変わる中で、少子化対策の推進と地域資源を最大限に活かした暮らしやすく幸せと絆を実感できるまちづくりを進めるものでありますが、現在、国際情勢、内外の経済ともに大きな変革の時期に遭遇しています。地方行政においても、自己決定、自己責任による自治体運営が求められるなど、新たな環境に直面し、まさに、行政の真価が問われている時代

といっても過言ではありません。そのような状況の中、議決機関である議会には、行政運営のチェック機能、政策提言などの更なる機能強化が求められ、議会の果たす役割は大きいと考えます。

東浦町議会におきましても、新年を契機に、現在邁進^{まいしん}している議会改革をさらに推し進め、住民の皆さまが議会に関心を持っていただき、議会を身近に感じていただける「東浦町議会」の実現を目指します。「チーム東浦町議会」を議員一同が意識し、住民の立場で小さな綻びをひとつずつ正すことに真摯に取り組み、町政の課題解決に全力を尽くして参りますので、本年もより一層のご理解、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

結びにあたりまして、住民皆さまのご健勝、ご多幸を心よりお祈りして新年のごあいさついたします。